

[第 73 回全国植樹祭開催に向けた取組状況について]

お手植え・お手播き樹種について

1 選定概要

有識者による「第 73 回全国植樹祭岩手県実行委員会植樹専門委員会」を設置し、委員の協議により候補樹種を選定。この結果を受け、事務局が関係機関、事業者等と調整中。

2 選定経過

(1) 委員

区分	所属・役職	氏名
委員長	岩手大学農学部 名誉教授	橋本 良二
副委員長	岩手大学人文社会科学部 教授	竹原 明秀
委員	公益社団法人岩手県緑化推進委員会 常務理事	赤澤 由明
	岩手県山林種苗協同組合 理事長	大森 茂男
	岩手県森林組合連合会 参事	吉田 良明
	環境省自然観光局大船渡自然保護官事務所 自然保護官	福濱 有喜子
	岩手県林業技術センター 上席専門研究員	蓬田 英俊

(2) 専門委員会

(ア) 第 1 回植樹専門委員会 (令和元年 9 月 26 日 (木) 13 時 30 分～15 時)

※福濱委員欠席

(イ) 第 2 回植樹専門委員会 (令和元年 11 月 1 日 (金) 10 時 30 分～12 時)

(3) 候補樹種

お手植え樹種：6 種 (天皇陛下 3 種、皇后陛下 3 種)

お手播き樹種：4 種 (天皇陛下 2 種、皇后陛下 2 種)

区分	天皇陛下	皇后陛下
お手植え樹種	南部アカマツ	ベニヤマボウシ
	カシワ	ハナヒョウタンボク
	タブノキ	ミチノクナシ (イワテヤマナシ)
お手播き樹種	オオヤマザクラ	ヤブツバキ
	ケヤキ	ハマナス

お手植え樹種候補（検討中）

	樹種名	写 真	選定理由	備 考
天皇陛下 お手植え 3種	南部アカマツ		県の木として広く県民に親しまれる県林業主要樹種。前回大会でも天皇皇后両陛下のお手植えに選定されている。	県内のアカマツ材は長大で通直であり、材質が良いので江戸時代から深川市場で有名であった。この名称は県産アカマツ材に付けられたもの。
	カシワ		日本では「代が途切れない」縁起物とされる。沿岸、寒冷地の気候に強く、気仙地域の海岸部にも群生。英語では Japanese Emperor Oak	翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物とされ、冬季の強風を防ぐ効果も果たす。
	タブノキ		本県山田町が太平洋岸における北限分布地。東日本大震災津波から生き残り、震災復興を象徴する。	防風の機能を有する樹種として知られる。枝葉は乾かして粉にするとタブ粉が得られ、線香や蚊取線香の材料の1つ(粘結材)として用いられている。樹皮や葉は染料に用いられる。材は、建築、家具などに使われる。
皇后陛下 お手植え 3種	ベニヤマボウシ		江戸時代末期に陸前高田市氷上山で発祥したとの説があり、市民に親しみがある。また、紅花のヤマボウシ「サトミ」は岩手県発祥の品種。	通常のヤマボウシは白色の総苞片(つぼみを包み込むように葉が変形)平成26年より陸前高田市観光物産協会で植樹会を行っている。
	ハナヒョウタンボク		国内では岩手県と長野県にのみ分布する希少、貴重な樹種。国の絶滅危惧種に選定されている。	日本では長野/岩手の2県にのみ確認されている希少植物である。国(環境省)では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。
	ミチノクナシ (イワテヤマナシ)		国の絶滅危惧種に選定される貴重な樹種。近年の研究で北上山地の個体のみが真の自生集団であることが明らかになった。	国(環境省)では絶滅危惧ⅠB類に指定されている。

お手播き樹種候補（検討中）

	樹種名	写 真	選定理由	備 考
天皇陛下 お手播き 2種	オオヤマザクラ		前回大会で天皇皇后陛下のお手植え樹種。前回植栽された樹木から採取した種子をお手播きに活用できる。	ヤマザクラに比べて色が濃い。 県内名所 亀ヶ森牧場の一本桜(岩手県宮古市、亀ヶ森牧場内)
	ケヤキ		県内伝統産業の一つ岩谷堂筆筒の材料として使用されるなど、県の林業を支える主要樹種。	紫波町がシンボル(町の木)に指定している
皇后陛下 お手播き 2種	ヤブツバキ		気仙地方を代表する照葉樹。本県宮古市が太平洋岸の北限。ツバキは開催地陸前高田市の花でもある。また、椿油は商品として販売されている。	陸前高田市の花。 土質を選ばずに育つ。 一年中、光沢のある濃緑の葉をつけており、目隠し、風よけとして使うことができる。 温暖な地を好み、冬の寒風、乾燥に弱い。
	ハマナス		沿岸部の砂地に自生する植物で、東日本大震災津波から生き残る力強さは復興を象徴する。 また、ハマナスは皇后陛下の「お印」。	花は香水の原料、根と樹皮は染料として利用される。